アロマンティック・アセクシュアルの日本における研究の現状

スコーピングレビューを用いて

Current State of Research on Aromanticism and Asexuality　in Japan：A Scoping Review

植村　藍也佳

UEMURA Ayaka

立命館大学大学院　人間科学研究科

Ritsumeikan University Graduate School of Human Science

Key words:アロマンティック・アセクシュアル, Aro/Ace

目的

本研究の目的は、日本における現在のアロマンティック・アセクシュアルに関する学術的蓄積を整理することで、日本におけるアロマンティック・アセクシュアル概念と当事者の実態について明らかにすることである。

アロマンティック・アセクシュアルとは

アセクシュアルとは「性的惹かれを経験しない人」、アロマンティックとは「恋愛関係に全く惹かれず、恋愛関係を望まない人」のことである。性的指向あるいは恋愛的指向であり、他人にそれを向けたいと考えないことが重要とされる（AVEN,2026）。性的指向と恋愛指向は別物とするスプリット・アトラクション・モデルがとられている（AVEN,2016）。スペクトラムの考え方を基盤に、近い性質のマイクロラベルの人々等も含むAro/Ace概念が流通している（松浦,2025）。

方法

沖田他（2021）を参考にスコーピングレビューを行った。文献の選択基準（PCC）は、対象者（P）はAro/Ace当事者、概念（C）は当事者の語りあるいはアロマンティック・アセクシュアル概念の分析、文脈（C）は日本における研究とした。検索データベースはJ-STAGEとIRDBで、検索日時は2026年7月5日、検索ワードは「アロマンティック・アセクシュアル」「アロマンティック」「アセクシュアル」であった。文献の選抜において、PCCに当てはまらない文献は除外した。

結果

自慰行為と性欲の有無についてはアセクシュアルでも一定数有るとの回答がみられたのに対し、他者と性行為をしようと思う割合は特にアセクシュアルで少なかった。（三宅・平森,2021）。アセクシュアルとアロマンティックの人々は、恋愛的または性的に惹かれる相手との関係性において、恋愛と性愛が結びつかないことによる葛藤を抱いていた。アロマンティック・アセクシュアルの人々は、恋愛・性愛を軸としたパートナーシップに価値が置かれている社会の中で、自らの指向を尊重する姿勢と孤独に対する不安の間で葛藤していた（此下・石丸,2023）。指向の自覚には「周囲との違和感（ズレ）の認識」と「言葉・概念との出会い」という2つの段階（吉岡,2019）があり、「強制的性愛」に基づく規範を、アセクシュアル特有の経験として認識していた（関口,2023）。また、「一般的感覚」が求められる場での困惑、嫌悪感や「わからなさ」への不安、周囲からの目線と無理解に困難を感じていた（柴田,2025）。1990年代から、アセクシュアルの経験がなかったわけではなく、その経験を語るための「言説（言葉や枠組み）」が欠けていた（長島,2026）。単なる「攻撃的な差別」ではなく、「いずれ恋愛・性愛に目覚める普通の人」という枠組みに回収され、その存在が実質的に否定される「抹消」が起きていた（松浦,2026）。

考察

周囲との感覚のズレによる苦悩、パートナー関係の上での葛藤や孤独、そうした感覚を言語化できない環境など、社会規範や社会関係における困難が固有の悩みにつながっていると考えられる。英語圏にあるAVENによる定義は、日本でも概ね受け入れられていると考えられる。

今後の展望

当事者のライフストーリー研究を行い、社会の中で生きる当事者がどのようにAro/Ace的経験を意味づけてきたかを明らかにしたい。

引用文献

此下　千晶・石丸　径一郎（2023）. アロマンティック／アセクシュアルの人々による語りのテキストマイニング――恋愛的指向と性的指向による違い――　お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 25, 9-20.／松浦　優（2025）. アセクシュアルアロマンティック入門：性的惹かれや恋愛感情を持たない人たち　集英社／松浦　優（2026）. アセクシュアル／アロマンティックの排除と抹消：「A」の消去と抵抗戦略について　立教大学ジェンダーフォーラム年報, 27, 85-93.／三宅　大二郎・平森　大規（2021）. 日本におけるアロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性―「Aro/Ace調査2020」の分析結果から―　人口問題研究, 77(2), 206-232.／長島　史織（2026）. 日本の性的マイノリティ・コミュニティにおけるアセクシュアル的経験の不可視化 ―1990年代レズビアン・コミュニティの一事例から―　「ジェンダー平等と日本社会」プロジェクト報告書, 18-23.／沖田　勇帆・廣瀬　卓哉・長　志保・高瀬　駿・岸　優斗（2021）. JBI Manual For Evidence Synthesis: Scoping Reviews 2020. スコーピングレビューのための最新版ガイドライン（日本語訳）　日本臨床作業療法研究, 8, 37-42.／柴田　恵理香（2025）. アロマンティック・アセクシュアルとその生きづらさ　社会学雑誌, 41, 333-353.／関口　麗美（2023）. アセクシュアル自認男性における葛藤：男らしさと強制的性愛規範の不可視性に着目して　東京女子大学社会学年報, 11, 27-34.／The Asexual Visbility and Education Network（2016）. The Split Attraction Model-What is it? The Asexual Visbility and Education Network　Retrieved June 7, 2026, from https://aroacefaq.tumblr.com/post/143810110365/the-split-attraction-model-what-is-it／The Asexual Visbility and Education Network（2001-2026）. ABOUT ASEXUALITY　The Asexual Visbility and Education Network　Retrieved June 7, 2026, from　https://www.asexuality.org/／吉岡　真梨子（2019）. Asexualであるという自覚はいかにしてなされ自己受容されるのか？：ライフストーリー・インタビューによる事例から　Journal of Learning Science, 12, 61-70.